

## 1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

標準学力分析検査において、標準偏差値50以上にする。

## 3. 指標にむけての取組

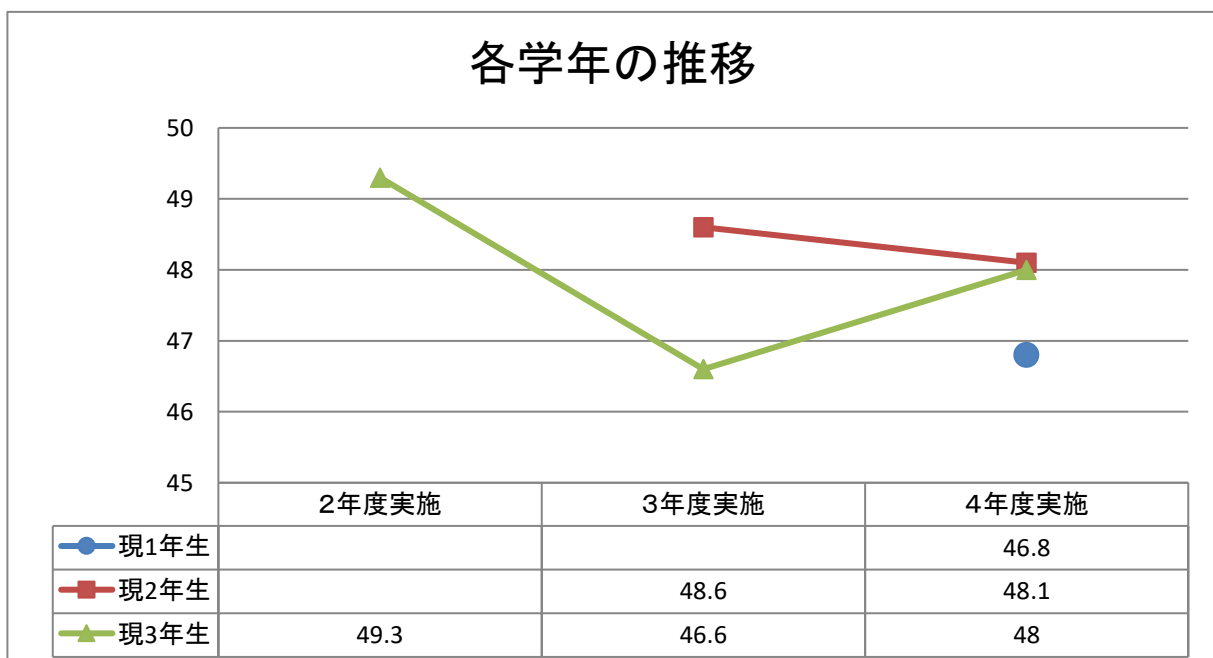
- 授業のグランドデザインをもとにした授業改善。
- 考査前補充学習の実施。
- 学力層D層生徒への個別の学習支援。

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	30年度	31年度 (元年度)	2年度	3年度	4年度
本校(A)	48.2	46.6	48.6	47.9	47.6
嘉麻市(B)	49.3	48.8	48.6	47.1	46.0
(A) - (B)	-1.1	-2.2	0	0.8	1.6
標準偏差値との差 (A) - (50)	-1.8	-3.4	-1.4	-2.1	-2.4

## 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- 授業のグランドデザインの流れを全授業で実施することができてきたが、思考活動場面の内容・活動方法の充実を図る必要がある。
- 定期考査前の補充学習の取組については、D層生徒の支援をより充実させるために、教科の厳選や日程の工夫が必要である。
- D層生徒の支援の充実を図るために、家庭学習の方法や内容の充実を各学年、各教科で工夫していく必要がある。

## 6. 各学校における今後の取組

- 授業での思考活動の充実を図るための校内研修、授業研修の実施。
- 授業改善の日常化を図るための相互授業参観週間の設定。
- 定期考査前後に、全職員で行う数学の習熟度別補充学習の実施。
- D層生徒の家庭学習支援のための教育相談、家庭学習内容・方法の支援。
- 家庭学習とメディアの使用に関する内容の生徒・保護者への啓発。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
  - ◆嘉麻市学力向上推進員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
  - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。